

平成29年度 第1回 四国地方整備局事業評価監視委員会 議事録

1. 日時：平成29年10月17日（火）13時30分～15時30分
2. 場所：高松サンポート合同庁舎北館 13階 1306・1307会議室
3. 委員：山中委員長、石原委員、岡部委員、岡村委員、橋本委員
四国地整：局長、次長、次長兼総務部長、企画部長、河川部長、道路部長、営繕部長、用地部長 他

■平成29年度の委員会の進め方及び重点審議・要点審議案件の選定について、事務局（案）が了承された。
（上記について、事務局から資料3-1～3-4により説明）

■要点審議案件 再評価対応方針（原案）7件の審議

・善徳地区直轄地すべり対策事業

・怒田・八畝地区直轄地すべり対策事業

（上記について、事務局から資料5-1～5-3-2により説明）

・四国横断自動車道 阿南四万十線 阿南～徳島東

・一般国道55号 福井道路

・一般国道56号 津島道路

・一般国道55号 阿南道路

・一般国道11号 新居浜バイパス

（上記について、事務局から資料6-1～資料6-6-2により説明）

委員長：

はい。ありがとうございました。それぞれについて質問等を頂きたいと思いますが、前半の地すべりについて何かありませんか。

委員：

質問というか、お願いというか、1つ目の善徳地区直轄地すべり対策事業の6ページの整備効果のところで、適切な効果があったということが分かる図にして頂いた方がいいのかなと思いました。この図を見ると、確かに水抜き工事によって、移動量が減少したように見えるのですが、そうではなく、事業をする前は全然動いてなかったわけで、全体像が分かるように、うまく示していただけたらと思いました。

もう1点教えて頂きたいのは、ここの地すべりの被害軽減効果ということで、7ページに吉野川の本川が氾濫をする可能性があるということを示した図がありますが、次の怒田・八畝地区でも全く同じ図面が出ています。これは、2つの地すべりによる天然ダムが同時期に崩壊して、段波が両方同時に起きて浸水するといった意味なのでしょうか。

事務局：

1点目ですが、ご指摘ありがとうございます。次回の事業評価に向け、どういう形で示したら効果がお分かり頂けるか、検討しまして、また相談させて頂きたいと思います。

2点目の被害軽減効果ですが、これは全く同じものではなく、それぞれの河道閉塞、いわゆる天然ダム

が崩壊した際の段波を、河川流量に重ねて示したものであるので、その河川流量が大きく、それぞれ段波が上乘せしている部分と、その差が小さいので、あまり違いがあるように見えないということです。

委員：

分かりました。ありがとうございます。

事務局：

区域内人口も若干違ってきますので、同じようには見えますが、別々に計算しております。

委員長：

他にありませんでしょうか。今の話にちょっと関連するかもしれませんが、どうしても地すべりは長期に渡る事業になってしまうので、どのブロックからやっていくのかという優先順位などを地元の方々にどう説明するのかといった所を、かなり苦労されているのではないかと感じるのですが、どういう指標を使って、ブロックの優先順位、どこから施工するのかというのを、どんなふうに説明されているのか、もし分かれば教えて頂きたいのですが。

事務局：

色々なものを組み合わせてしているのですが、例えば、ブロックごとの保全対象人家の数、或いは、抑制工、水抜きを実施していますので、これはやはり移動量ですね。動きが活発なブロックと、そうではないブロックがありましたら、活発なブロックの方を優先するとか、そういう形で優先度をいくつかの指標を組み合わせて決めて、実施しています。

委員長：

それは、ある程度決まった方法なのですか、それとも、かなり総合的なものなのですか。例えば、おっしゃるような崩れやすい所と、実際に崩れた時に被害が大きい所、どういうふうに選定されているのか教えて頂けないでしょうか。

事務局：

先ほどの判断の基準ですが、毎年、或いは数年ごとに地すべりの専門家で構成する委員会を所内で立ち上げており、その中で、委員の先生に確認しながら、どこの優先順位が高いかということを決め、それで事業を進めています。なかなか一概に、この指標だけと決められないので、専門家から助言を仰ぎながら事業を進めています。

委員長：

その委員会は公開されているのですか。

事務局：

審議自体は非公開でしてございまして、結果については、後日、HP等で公開しております。

委員長：

益々、大雨等で実際に被害が生じてしまう可能性が非常に高くなってきており、起こった時の問題というのは、非常に大きなことになるのですが、どういう順番でやっていたのか、かなり説明をしていかなければならないのかなと思い、質問させて頂きました。是非、しっかり説明ができるような形でやって頂ければと思います。よろしくお願ひします。他に何か。

委員：

64年間で約400億円というのは、年間にすると大きな事業ではないのですが、こういう事業というのは、どんなふうにして事業の工法を決めていって執行しているのでしょうか。

事務局：

地すべりの事業の工法として、大きく2つありまして、1つは地下水を抜くことによって、地すべりに影響している地下水の影響を軽減する方法、それからもう1つは、アンカー工や抑止杭など、端的に言えば、地すべりを地面に縫い付けて直接止めるというような2つの方法がありますが、基本は、まず水を抜いて動きを抑制するところから始めるというのがセオリーになっています。

実際に水を抜いたことによって、先ほど移動量のグラフで示しましたが、どれぐらい移動が止まったかというのを観測しながら、それを安全率と言っていますが、斜面がどれぐらい安定しているのかというのを判定する材料に使い、その安全率に基づいてある程度効果が上がってきたら、次はその安全率を基に抑止工の縫い付けるような対策方法に移ろうなどといった判断をしているところです。

従いまして、一遍に事業を進められるわけではなく、段階をおって効果などを確かめながら事業をしているので、事業期間が長くかかるという側面もあるということをお理解頂ければと思います。

委員：

そうしますと、観測はこの地域全体で色んな幾つかのポイントで見ている、変動が多くなった時に杭を打つということですか。基本的には水を抜くことが大事で、なかなか水が抜けないような所で、移動量や変動が大きいと杭を打つということなのですか。

事務局：

どちらかと言いますと、動いているものを止めようとする、すごく大きな力をもって止めないといけないので、杭とかアンカーとかの規模は、本数が大きくなったり増えたりします。なので、まずは、その抑制工で動きを止める、水が抜けていないと思えば、そのよく地下水がどこにあるのかというのを、ボーリングなどで観測し、どこに地下水があるのかということを探って、そこに向けてまた追加で水を抜くというようなやり方をしています。

委員：

はい。ありがとうございます。

委員：

今、お話にありましたように、60年を超える事業ということで、他の委員の方からもお話がありまし

たように、年間にすると、それほど大きな事業ではないと思うのですが、将来を考えると、2代に渡ってするような期間なのだろうと思います。これだけ僻地で、急峻な現場でこういう特殊な工事ができる業者さんというのは、かなり限られてくるのかなと思うのですが、今までのご苦勞を何か1つお聞かせ頂けたらと思います。

事務局：

ご指摘のとおり、特に山間地で仕事をしているものですから、最近特に、入札不調という形で、工事の公告を出しても、入札してくれる企業が存在しないということが、ちょくちょくあります。なかなか工事が一度に集中すると、工事を遂行することができませんので、そのあたり、発注時期ですとか、そういったことも考えながら工事を実施しているようなところでは。

委員長：

はい。非常に悩ましい問題だと思います。おっしゃるように業者さんの高齢化も進んでおり、疲労的な要素が出てきているなという感じがしています。

山というのは、どんどん動いているため、次々と手当てを続けていくような事業かなというふうな感じがします。そのためには、モニタリングは続けていかなければいけないし、その上で工事はしていかなければいけない。どういう事業でも事業期間を組むということは非常に悩ましいのですが、エリアを非常に細かくして短期間で行うのではなく、むしろもう少し広いエリアでスパンを長くとってじっくりと見ていけるように、上手く説明できるよう工夫して頂けたらと思います。

他にありませんでしょうか。

それでは、道路の方に移りたいと思います。道路に関して何かありますでしょうか。

委員：

前年度にも質問させて頂いたのですが、道路事業では8の字ネットワークを始めとして、全て南海トラフ地震対策というところが、目標の1つに挙げられています。津島道路の説明では、この道路が、津波の時の浸水予想区間よりも路面が高いということが、図に示されていますが、徳島の3箇所については、津波の浸水予想がどのようになっているのかよく分かりません。一番最初に説明して頂いた「四国横断自動車道 阿南四万十線 阿南～徳島東」では、海を埋め立てした所に工場を誘致して、その近くに道路ができるようですが、写真を見ると、津波が来て大丈夫なのかなというのが、不安に思います。

前年度の時に、道路の高さを示して頂きたいとお願いしたのですが、新居浜は瀬戸内なので大丈夫かもしれませんが、徳島の3箇所について、高さの点がちょっと不安になりました。

実は、高知県で今、国道が整備されているのですが、地元の人たちは本当に大丈夫なのか。津波が来たら、役に立たないのではないかとというのが、実は、よく聞く意見でもあるので、そのあたりを聞かせてください。

事務局：

今のご指摘の点ですが、整備効果についてバリエーションを持たせてご説明させていただいており、津波については津島道路のみと説明の方が偏ってしまいました。本日も説明した案件のなかでは、8の字ルート関係の事業に関しては、津波の浸水予想の高さを上回るような形で設計しておりますので大丈夫です。

一方、阿南道路の方ですが、こちらについては、そもそもの整備目的が渋滞解消といったバイパス事業でして、今回、整備している区間、那賀川を渡る区間については高さ的に大丈夫ですが、全線に渡って大丈夫かという、一部浸かるような区間もあります。

阿南道路に並行して四国横断道と桑野道路、福井道路、日和佐道路などを8の字ルートとして整備しており、これによって徳島県の南北の移動が確保できると考えています。今後は津波への対応が分かるよう高さ関係も注意して説明したいと思います。

委員長：

他ありませんか。道路の整備年度を予め公開して企業立地を促進するのは、非常にいい試みだと思います。ぜひこういう形で進めて頂けたらと思います。

今まで早く早くだったのですが、やはり正確に事業時期を明確にしていくというのが、逆に、民間にとって重要なことなのかなと思います。あまり言うておいて延びるとするのは、非常に危ないものですから。

そういうことから言うと、だいたい何年ぐらい前に整備年度が明確になってくるものなのでしょうか。場所によって相当違うとは思いますが、特に、地図混乱や所有者不明みたいなものが出てくると、非常に読みづらいとは思いますが、そのようなことがなければ、道路については、どれぐらいを目途に公表していきたいと思っているのか、その点をお聞きしたいのですが。

事務局：

事業の開通時期を明示することで企業立地が計画的にできるということで、我々もなるべく早く提示したいと考えています。一方で大きな問題となるのが、やはり用地の問題です。地図混乱等の問題が出ましたが、その他に、事業の反対であるとか、そういったところで、用地が買収できていないと、なかなか開通時期を提示出来ないという状況です。逆に言うと用地の問題が解決すると、あとは予算の確保などが課題となり、それらを勘案しながら示していくということになります。

そうすると、だいたいどれぐらい前かというのは、概ね数年、長くて5年ぐらいになるのではないかと、思います。できるだけ前向きに、今でもなるべく多くの箇所が開通年度を公表させて頂いているところで、片坂バイパス、中村宿毛道路といったところで開通年度を公表しています。

委員長：

ありがとうございます。その辺は実際に進出される方とのコミュニケーションですね。どれぐらい前に知っていればやりやすいのか、出来るだけ地元でのコミュニケーションを進めて頂きながら、事業を進めていくのが大切だと思いますので、是非よろしくお願いします。他にありませんか。よろしいですか。

ご意見大体出たようですので、意見の整理を行いたいと思いますが、要点審議案件7件について、いくつか見やすさだとか、報告の仕方についての意見を頂きましたが、この事業を継続するという事に関しては、それぞれ事業者の判断は妥当ということでもよろしいでしょうか。ご意見がないようですので、事業者の判断は妥当ということとさせていただきます。

これで再評価7件の審議は終わりましたので、次に報告事項の説明をお願いします。

■報告対象事業 5件

- ・仁淀川床上浸水対策特別緊急事業（宇治川）
 - ・仁淀川床上浸水対策特別緊急事業（日下川）
 - ・四万十川直轄河川改修事業
 - ・渡川総合水系環境整備事業
 - ・中筋川総合開発事業(横瀬川ダム)
- （上記について、事務局から資料7により説明）

委員長：

はい。ありがとうございます。いかがですか。ご質問ありませんか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で今回の対象案件についての審議を全て終了します。委員会の運営にあたりまして、皆さん、ご協力頂きありがとうございました。次回の第2回委員会ですが、残りました審議について12月5日の15時～17時ということになっていますので、日程の確保をよろしくお願いします。それでは、議事の進行をお返しします。

司会：

どうもありがとうございました。このあと、委員長におかれましては、議事内容をとりまとめた資料をご確認いただきますので、恐れ入りますが、控室までお願いします。皆さま、長時間のご審議、誠にありがとうございました。それでは、これをもちまして、平成29年度 第1回 四国地方整備局事業評価監視委員会を終了します。本日はありがとうございました。